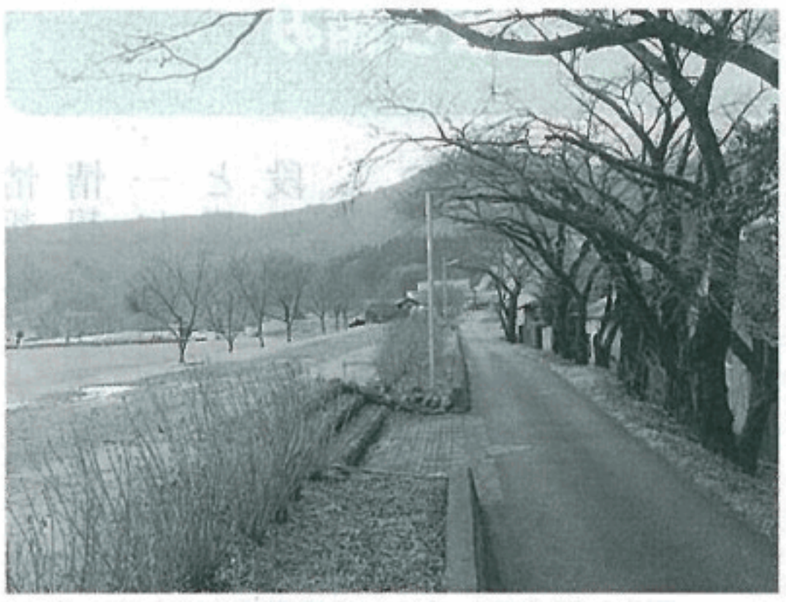
久野議員

問 1、上長尾バイパスの進捗状況は 2、田代川ダム問題についての評価は

質問　合併支援重点道路事業の一つ、上長尾バイパスについて、その計画の内容並びに進捗状況と完成による影響、それに対する振興策又、住民の利便性、安全性についてと、地区にとって重大な案件であるので地区全体の説明会等開く考えは。

町長　この事業は平成20年までの期間として県が実施する事業で、当初の計画より、3億円が予算追加され、上長尾バイパスにも2億円追加により270m延長、温泉スタンドを起点に、概ね生きがいの里までとなり、現管理道路を歩道とし、トイレを移動の上幅員6.5mの道路とする設計と聞いており、当初の計画部分については、用地交渉、境界確定を終わっていますが、課題として転居先の用地確保が残っています。お茶まつりに合わせ、起点から茶工場までの開設を県にお願いしている。

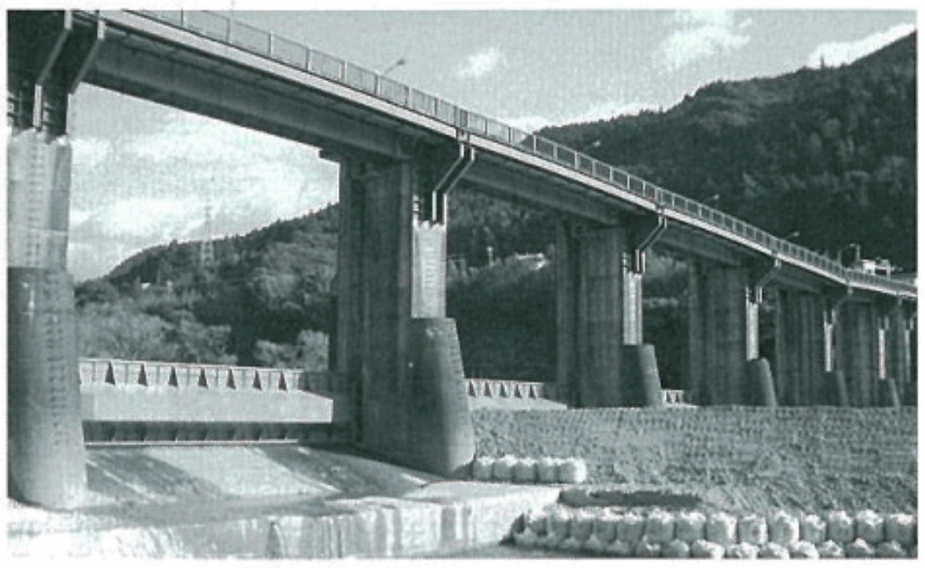

上長尾バイパス予定地

バイパス完成の影響は交通安全対策につながるものです。地元の要望を受け進んで来たものでは地元の方の協力を得ながら、商店街、あるいは町民の利便性の確保を考えたい。そしてバイパスができると商店街の振興が課題と言われるが、今後商店街のあり方と地元の方々のアイデア・努力と共に行政も支援する中で解決できるのではないかと思っています。

そして、この支援道路が全線開通に向けて1mでも先に延ばす事が重要であるが、現在側道を利用している住民や転居の方等生活に大きく影響する部分があるので詳細な検討をしているところで、県事業ではあるが町として要望を伝え、情報収集と方向確定をもとに不安のないよう説明会を順にしていきたいと思います。

答 1、地元要望と協力を受け着手 2、大井川の重要性を再確認

質問　田代ダムの更新について地元案には及ばなく不満であるが、地元代表としてご努力され一つの段階を上った、双方歩みよった形での決着かと思いますが、これまでの総括と評価について又、この流量を大井川の水として確保し下流までどの様に流すか、そしてこの問題等を解決すべくいただいたと思っています。今までの水返せ運動と異なり科学的根拠、具体的数字から導き出したデータに基づき理論的な議論を進めるという新しい手法は、今後の水利権更新のモデルケースとなったと考えます。


いずれ更新をむかえる塩郷ダム

又今後我々が中部電力のダムの水利権更新にもこの手法は適用され、関係者が同じテーブルの上で議論を進め合意形成を図っていく事が大事で、この事と大井川全川を見据えた算定方法は、大きな前進であると思います。

流量については、現時点ではそのまま、大井川を下ってくるという事であるが、施設の改善等検証していきたい。そして国、県も流域の検討会については、設立を計画との事です。構成等については詳細は聞いていないが、住民の意見を十分に反映できるような流域委員会になるよう河川事務所にも要望していきたいと考え、行政関係者のみならず、いろいろな立場の人の意見を吸い上げまとめていく事が必要と思っています。

町長　地元の支援と協力議会の意見書の採択等が大きな流れとなり現在の決着となったと感じています。そして住民の皆様が大井川の重要性を改めて認識して大井川河川計画を審議策定する検討会等の設置について町長の考えは